

その他

1 公共交通実証事業の方針について

(1) 趣旨・方針

交通事業者においては、採算性の確保及び運転士不足等の厳しい課題を抱える一方で、市内の公共交通については、バス交通不便地域への対応や利便性の向上、利用促進を図る必要がある。

このため、市内バスの拡充方策については、交通事業者と継続して検討・調整を図り、今年度内を目標として、関係者との協議が整ったならば、協定等を結び、実証運行による実利用者のニーズ把握、実用性等の調査を行う方針とする。

なお、詳細なルート設定および時刻に際しては、費用や運行事業者の配車、道路状況等を勘案する必要があるため、運行事業者と事務局にて詳細の協議をさせていただき、案が固まり次第協議会にて再度ご意見を頂戴したい。

【現時点での想定】

○実証実験期間：令和7年10月～3月（半年）※年度内完結の場合の最大値

○可能性のある時間帯：平日9時30分頃～15時30分頃（オフピーク時間帯）
の運転手数に多少の余力がある時間帯
※可能時間帯の最大値

○実証バス想定：①高野・赤法花地区等のバス交通不便地域を軸とし、市内主要公共交通結節点を通り、その他ルートに乗り換えることで市内各方面にアクセスできる路線。

②日中のお買い物・主要病院等を回る路線

※限られた輸送資源・条件の中で、どのような実証運行を行い、実際のニーズを把握していくか検討する。

(2) 新たな移動手段の導入について

新たな移動手段の導入については、発注予定の業務委託の進捗・検討状況によるが、地域の輸送資源を有効活用し、本市公共交通ネットワークを持続可能で、多様かつ質を高められるものであれば、令和8年度に実証運行を開始できるよう、関係者との協議及び予算（財源）の確保を進める方針とする。

以下、「守谷市地域公共交通計画」からの抜粋（参考）

P.111

第1章 目標達成に向けた施策・取組

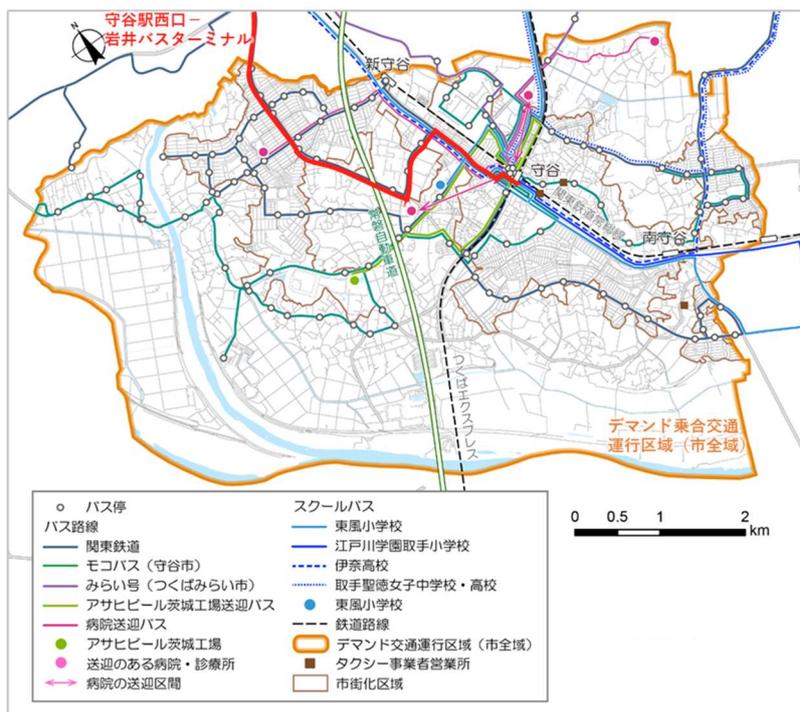
1.1. 地域公共交通の確保・維持

1.1.1. 公共交通の役割の整理

今後の施策・取組を検討するにあたり、市内の公共交通を3つの位置付けに区分し、各公共交通の役割を整理した。

表 1-1 公共交通の役割の整理

位置付け	系統等	確保・維持施策
広域幹線	役割：都市拠点から市外への広域交通を担う。 ○鉄道路線 ・首都圏新都市鉄道つくばエクスプレス ・関東鉄道常総線	・交通事業者と協議の上、利便性を向上し、利用の促進を図り一定以上の運行水準を確保する。
地域内幹線	役割：守谷駅を発着地として、市内並びに隣接市の各拠点を連絡する。 ○関東鉄道バス ・守谷駅西口－北守谷公民館（北守谷シャトル(急行)） ・守谷駅西口－新守谷駅 ・守谷駅西口－美園循環 ・守谷駅東口－取手駅西口 ・守谷駅東口－つくばセンター（深夜急行バス） ※運休中 ○関東鉄道バス ・守谷駅西口－岩井バスターミナル	・ <u>交通事業者と協議の上、利便性を向上し、利用の促進を図り一定以上の運行水準を確保する。</u> ・地域公共交通確保維持事業（幹線補助）を活用し、持続可能な運行を目指す。
支線	役割：市内各地域を運行し、軸となる幹線や地域拠点に接続する。 ○モコバス（守谷市） ・市役所・板戸井ルート ・みずき野・松並青葉ルート ○デマンド乗合交通 ・市内全域	・交通事業者と連携した取組により一定以上の運行水準を確保する。 ・地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）を活用し、持続可能な運行を目指す。



※持続可能な公共交通網形成のため、施設送迎バス等についても連携を図る必要があることから、記載している

図 1-1 公共交通等の運行状況

P.115

1.2. 目標達成に向けた取組内容

目標達成に向けて取り組むべき施策を以下に整理した。

施策 1

利用状況に応じた路線バス及びモコバスのサービス水準の見直し

市内の主要な移動手段であるバスを便利に利用できるよう、利用状況や市民ニーズを踏まえ、路線バス事業者と協議しサービス水準を見直す。一方で、健全なバス運営のために、利用の少ない便やバス停については、影響を十分に検討したうえで、減少・廃止する。

1-1. バスダイヤの見直し

利便性が高まるよう運行ダイヤ、便数を見直す。利用の少ない時間帯については、その必要性を十分に検討し、便の減少若しくは廃止等を実施する。

1-2. バス路線・バス停の見直し

利用の多い区間やバス停については、維持に努める。またニーズのある方面、若しくは利用者の少ない区間・バス停に対しては、運行経路の変更を検討する。

1-3. モコバスの運行形態の検討

現在モコバスは定時定路線で運行しているが、利用状況やニーズに応じた柔軟な運行形態を検討する。